令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査　10 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 8 年 10 月 9 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は 23.2～26.2℃、調査地点の風は森ヶ崎の鼻では北寄り、お台場海浜公園と葛西人工渚では南寄り、風速 1.0～2.3m であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 02 分、満潮は 16 時 10 分であった（気象庁のデータ）。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全地点において、マゴチが出現した。お台場海浜公園でシラウオが多く出現した。

	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	8:51-9:54	11:11-12:55	13:20-14:37
水温(℃)	23.2	24.4	22.6
塩分(-)	13.5	12.0	0.3
透視度(cm)	62.5	30.0	56.0
DO(mg/L)	5.0	7.2	9.1
DO飽和度(%)	63.8	92.3	105.6
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	6.9	6.9	7.6
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考			

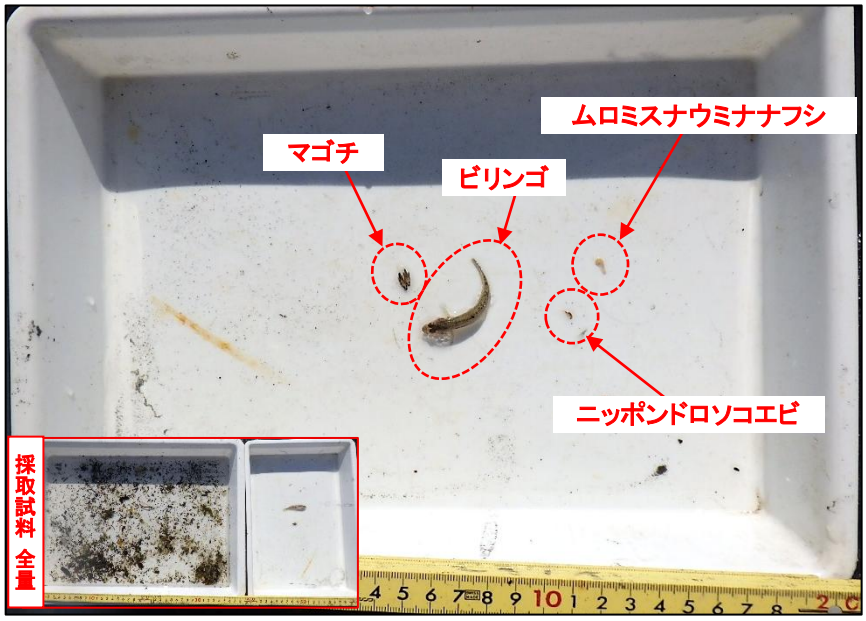
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種（多い順[注]）	マゴチ(r)	シラウオ(+)	シラウオ(m)
	ビリンゴ(r)	ヒモハゼ(r)	ビリンゴ(c)
		マゴチ(r)	アシシロハゼ(r)
		アシシロハゼ(r)	マゴチ(r)
		カライワシ(r)	
魚類以外	ムロミスナウミナナフシ(r)	ニホンイサザアミ(G)	ニホンイサザアミ(r)
	ニッポンドロソコエビ(r)	シラタエビ(m)	シラタエビ(r)
		エビジャコ属(c)	コウロエンカワヒバリガイ(r)
備考		他にクーマ類が採集された。	他にドロクダムシ属、ヨコエビ類、クロイサザアミが採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

森ヶ崎の鼻　採取試料



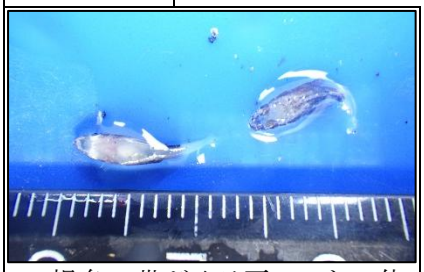




羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

マゴチ



褐色の帯が入る平べったい体が特徴。内湾や河口域の水深30m 以浅の砂泥底に生息し、底生生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。

ビリンゴ



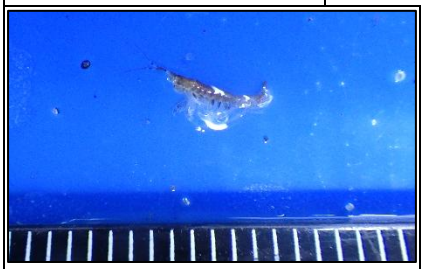
マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。産卵期は早春。

ムロミスナウミナナフシ



体長 2 cmほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある場合もある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

ニッポンドロソコエビ



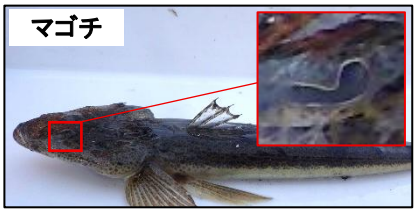
体長 1～2cm ほどになる。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。主に懸濁物を食べているが、小型甲殻類を捕食することもある。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。

コチ科の虹彩被膜

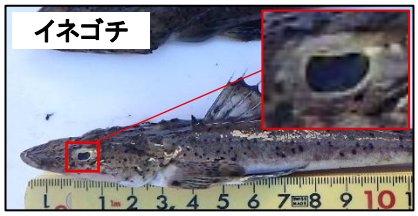
マゴチ等のコチ科はその平べったい体型だけではなく、目も特徴的な魚種である。目の上方を虹彩被膜(こうさいひまく)が覆っているが、種によってその形は違う。

コチ科は砂に潜って獲物が来るのを待つ捕食スタイルであるが、その際に目を隠す効果があると考えられている。

参考画像:マゴチ(右上)はハート型、イネゴチ(右下)は半円型になっている。



令和 4 年 11 月成魚調査(St.22)より



令和 5 年 2 月成魚調査(St.35)より

葛西人工渚　採取試料







東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

マゴチ



※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

ヒモハゼ



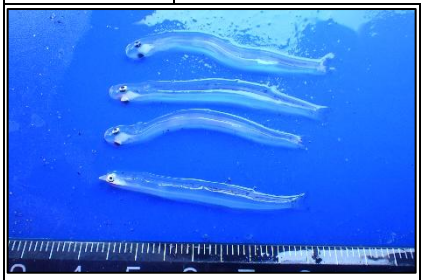
体はミミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。成魚で全長 4cm ほど。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。主に小型甲殻類を食べる。産卵期は初夏。

アシシロハゼ



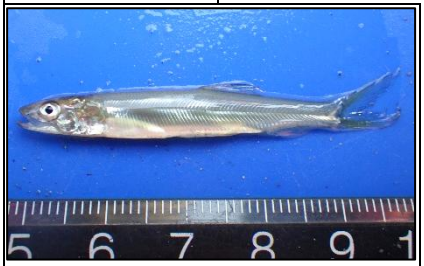
鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。初夏から秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

シラウオ



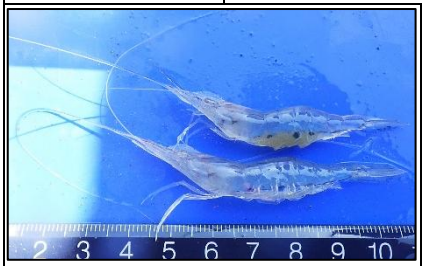
イシカワシラウオとは尾びれの基部の黒点の入り方等で見分けられる。東京湾では 1960 年代に絶滅したと考えられていたが、2021 年に再発見された。本調査では R6(2024)年度以降毎年確認されている。

カライワシ



東京湾では内湾の干潟域や外湾の砂浜海岸で体長 3cm ほどの稚魚が 7 月から 9 月に見られることが多い。成長すると体長 75cm ほどになる。

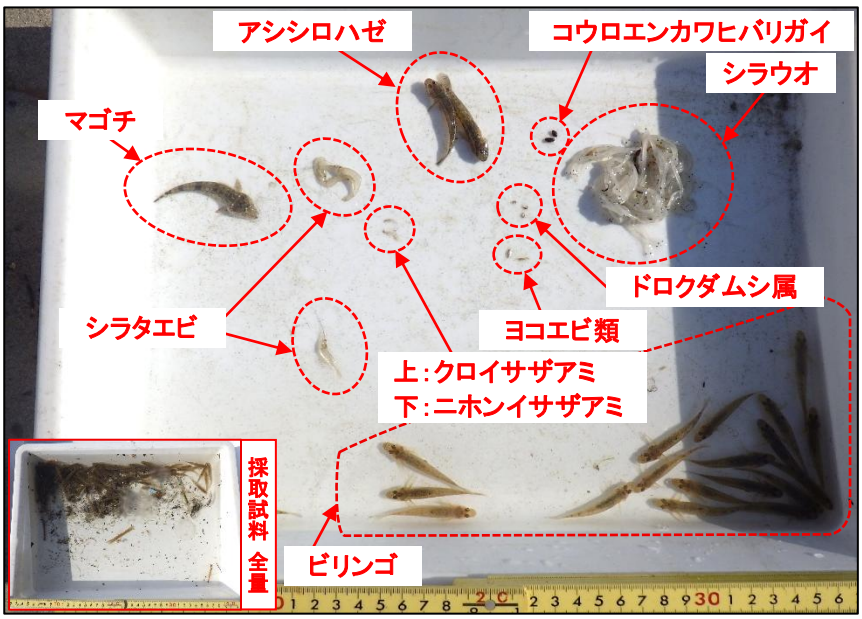
シラタエビ



青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

今回、抱卵個体が採集された。

お台場海浜公園　採取試料







水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

シラウオ



※解説は葛西人工渚を参照。
約 100 個体と多く確認された。

ビリンゴ



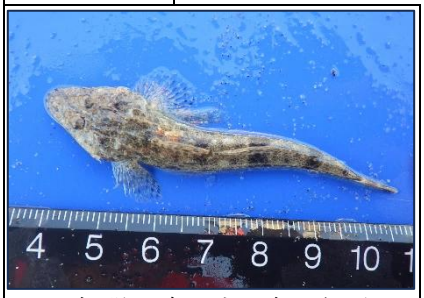
※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

アシシロハゼ



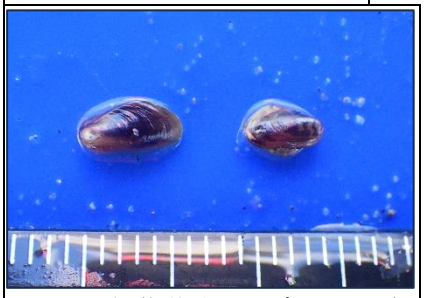
※解説は葛西人工渚を参照。

マゴチ



※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

コウロエンカワヒバリガイ



1970 年代後半に国内で発見された外来種。東京湾では代表的な付着生物となっている。水質汚濁や塩分の変化に強く、港湾の防波堤や転石等に高密度に付着する。

ドロクダムシ属



体長 7mm ほどになるヨコエビの仲間。腕のように見える大きな第二触覚が特徴。泥等で管を作り、そこに棲む。内湾等に多く出現する。